



TOUR NEWS

インターネット <http://www.jgto.org/> 携帯サイト <http://mobile.jgto.org/>

発行 日本ゴルフツアー機構 〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-5 赤坂アビタシオンビル5F TEL.03-3585-7381 FAX.03-3585-7383

『WGC NECインビテーショナル』に挑む細川和彦

今年のツアープレーヤー No.1 を決める「日本ゴルフツアー選手権穴戸ヒルズカップ」を制した細川和彦。5年間のシード権とともに8月に米国で行なわれる「WGC NECインビテーショナル」の出場権を獲得した。

ツアー選手権優勝者が参戦

今月の18日から4日間、米国オハイオ州のファイアーストーンCCで行なわれる「WGC NECインビテーショナル」は、厳選された選手だけが出場できる試合。

今年はワールドランキングからトップ50名と指定された試合の優勝者、さらに2004年ライダーカップ出場者などに出場資格が与えられ、毎年80名前後の選手しか出場することができない。

その「WGC NECインビテーショナル」に、2002年から「日本ゴルフツアー選手権」の優勝者がジャパングolfツアーを代表して参戦している。これまでのツアー選手権優勝者の成績は、02年佐藤信人65位タイ、03年伊沢利光14位タイ、そして昨年のS.K.ホは27位タイだった。

「NECは予選カットがないので、ガンガン攻めていきたいと思えます。ファイアーストーンCCは初めてのコースですが、尾崎直道さんからコースのことはいろいろ教わりました」と、今年挑戦する細川和彦は抱負を語る。

「結果がついてくれば、体も治る」

もともと海外志向が強かった細川。99年に全日空オープンとゴルフ日本シリーズに優勝して賞金ランキング2位になると、翌2000年は米国ツアーを転戦。13試合を戦い、6月のケンパーオープンでは2打差の2位に入った実績がある。

30歳を迎え、ツアープレーヤーとしてこれからという2001年秋、日本オープン初日



ツアー選手権のビッグタイトルを手に入れた細川(写真・上)。森稔大会名誉会長も細川を祝福(写真・左)

に突然原因不明の腹痛に見舞われ、そのまま緊急入院。一時は体重が10キロも落ち、飛距離も2クラブほど落ちてしまい、「俺のゴルフ人生も終わった」と絶望感を味わったほどだった。

当然のように賞金ランキングも年々下降し、昨年についに45位まで落ち込んでしまっていたが、それでも細川は腐ることなく治療に励み、食事に気を遣いながら体力の回復に前向きに取り組んできた。

今でも体調は万全ではないが、今年から少林寺拳法やボクシングを取り入れたトレーニングで体力・筋力の強化に努め、周囲からも飛距離が戻ったと言われるまでになった。

そして掴み取ったツアープレーヤーNo.1



のビッグタイトル。「結果がついてくれば、体も治る」と、この4年間プラス思考でツアーを戦い続けてきた細川にとって、4年ぶりに味わうツアー8勝目は何よりの良薬になったに違いない。

無心に戦えたプレーオフ

「NECインビテーショナルの獲得賞金は日本の賞金ランキングにも加算されるので、なんとか頑張りたいですね。ゴルフの調子もすこぶるいいので、日本ゴルフツアー選手権のチャンピオンとして恥ずかしくないプレーをしてきたいです」と、細川は米国に行くのが待ち遠しいと言わんばかりに、目を輝かせて楽しそうに語った。

そういえば、ツアー選手権のプレーオフもそうだった。緊張感いっぱいD.スメイルと今野康晴とは対照的に、「信じられないくらい無心に戦えた」という細川の表情は柔和で、どこかゴルフを楽しんでいるかのように映った。きっとこの4年間でなめた辛酸が、細川を人間的に大きくしたのだろう。

絶望の淵から這い上がってきた細川。ゴルフができる喜びを存分にかみしめながら、自然体で臨む「NECインビテーショナル」での活躍が目される。

社会貢献活動に寄与する

『日本ゴルフツアー選手権穴戸ヒルズカップ』

ツアープレーヤーNo.1を決める『日本ゴルフツアー選手権穴戸ヒルズカップ』には、もうひとつのテーマがある。地元・地域に根ざし、社会貢献活動を通じてスポーツ文化の発展に寄与することだ。今年もさまざまなイベントが行なわれた。

故・小野光一氏の功績をたたえた「第5回 JGTOゴルフトーナメント功労賞」授賞式

第3ラウンドのスタート前に行なわれた「第5回JGTOゴルフトーナメント功労賞」授賞式。今年の実賞者は往年の名プレーヤーである故・小野光一氏。晴れの表彰式には三女の坂井俊子さんが京都の山科から駆けつけた。



父・小野光一プロの偉大さを改めて
かみしめる坂井俊子さん

「高齢になっても積極的に試合に出場し、どんなときでもプロ根性を忘れなかった父が私たち家族の誇りでした。今回、このような立派な賞をいただき、父への思いを再び思い出すことができました」と、俊子さんはしみじみと語られた。

日本ゴルフツアー機構は小野氏の偉大な功績をたたえ、理事長の島田幸作より純金製の記念メダルと盾を授与。俊子さんは小野氏の写真パネルの傍らで関係者、ギャラリーに深々と頭を下げられ、

「こんなに良い思い出を作ってください、本当にありがとうございました」と挨拶された。

スマトラ沖地震被災地復興の義捐金を贈呈

今年で6回目を迎えた日本ゴルフツアー選手権。第1回大会以来、社会貢献活動の一環として開催地の教育委員会や医療機関、福祉団体さらにはジュニアゴルファーの育成などに大会収益金の中から寄贈を行ってきた。

今年には選手たちからの提案もあり、昨年甚大な被害をもたらしたスマトラ沖地震の被災地復興に義捐金を贈ることを決定。

ツアー選手権の開催前に六本木ヒルズで行なわれたプレイベント『ファンとの集い』でのチャリティオークションや大会期間中にお寄せいただいたチャリティ募金、なら



アブドール・イルサン大使に義捐金を贈る細川

びに大会3日目に行なわれたイベント『元気アップ穴戸まつり』でのチャリティオークションなどで、計372万7603円が集められた。

激戦の余韻がまだ残る表彰式に在日インドネシア大使のアブドール・イルサン氏をお招きし、選手・関係者を代表して今年のツアー選手権チャンピオンである細川和彦の手から集められた義捐金が寄贈された。

地元・地域社会と一体化! 大盛況だった『元気アップ穴戸まつり』

大会3日目の7月2日(土) 競技終了後に会場内のイベントプラザで地元・友部町が主催して『元気アップ穴戸まつり』が行なわれた。

地元・地域社会と一体となった大会を掲げる日本ゴルフツアー選手権。打ち上げ花火を合図に、地元・小学生によるマーチン



会場を盛り上げた子供たちの和太鼓



オークションにはS.K.ホ(写真・左)と星野(同・中)が参加

グバンドや和太鼓の演奏など地元のご協力を得て、会場は楽しい雰囲気包まれた。

チャリティオークションには昨年のチャンピオンのS.K.ホと星野英正が参加。試合中とは違うプロの素顔に、集まったギャラリーは大喜び。大盛況のうちに『元気アップ穴戸まつり』は幕を閉じた。

『スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ』は、沖縄県の壺屋小学校が初優勝

3回目を迎えた『スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ』。今年は全国から過去最高となる20校が参加して、大会3日目の土曜日に熱戦を繰り広げた。



優勝した壺屋小学校

優勝したのは3年連続出場の沖縄県那覇市立壺屋小学校。昨年は1打差で2位に甘んじたが、今年は2位に5打差をつける圧勝で見事リベンジを果たした。2位には同じく沖縄県の名護市立大北小学校が入り、3位は地元・友部町立北川根小学校だった。

また翌日の大会最終日、JGTOカップに参加した子供たちが「キッズエスコート」で大活躍した。



大ギャラリーの暖かい拍手に迎えられたキッズエスコート

チームおそろいの体操服を着て、1番テイクグラウンドに選手と手をつないで登場。大ギャラリーの拍手に迎えられて緊張感を隠せない子供たちだったが、見事にエスコート役を果たし、日本ゴルフツアー選手権を盛り上げた。

「伝統あるKBCオーガスタを“男の戦う場”に。 微力ながらゴルフ文化のひとつとして、男子ツアーの価値を高めたいですね」

今年から新たに「アンダーアーマー-KBCオーガスタゴルフトーナメント」となった真夏の祭典。冠スポンサーとなった株式会社ドームの安田秀一代表取締役、大会へのビジョンをうかがった。

株式会社ドーム
代表取締役

安田秀一氏

今年から「アンダーアーマー-KBCオーガスタゴルフトーナメント」の特別協賛社となりました。冠名の『アンダーアーマー』とは？

アスリートのために開発されたパフォーマンスアパレルで、あらゆる季節、天候に対応した数種類の商品を取り揃えています。一番わかりやすいのが、今、プロ野球選手たちが愛用している体にピッタリとフィットとしたアンダーシャツです。もちろんゴルフウェアもあります。

名フットボラーでいらっしゃった安田社長が、何故ゴルフトーナメントをサポートするのですか？

日本のスポーツ界に貢献したい、スポーツ文化を育てたいという思いからスポンサーさせてもらいました。本大会は今年で33回目という歴史と伝統を誇る試合で、むしろ私たちがサポートできることは大変光栄で、ありがたく思っています。「アンダーアーマー-KBCオーガスタ」のほかに、今年にはトリアスロンでもスポンサーをします。

アメリカをはじめ、コーチとしてNFLヨーロッパにも参加された経験をお持ちですが、日本のスポーツ文化をどう思われますか？

低いですね(笑)。日本はまだまだ土のグラウンドで、泥んこになってやっています。選手たちは悲しい思いをしているし、第一危ないですよ。アメリカは高校でも芝生のグラウンドですし、ウェイトトレーニングルームだって抜群な施設を持っています。

ゴルフに関しては、どう思われますか？

プロゴルファーは、まずスポーツ選手としてアスリートでなければなりません。T・ウッズはもちろんのことV・シンやP・ミケルソンを見ても分かる通り、一流のアスリートらしく体が大きくて、筋肉もしっかり発達しています。体つきを見ただけでも日本の選手は勝てないですよ。私がプロゴルファーの方と知り合ったのは2、3年前ですが、当時はフィットネスカーがあるくらいで、普段はトレーニングをしたくてもできる環境ではなかったし、トレーニング方法も分からない状態でした。

現在は多くの選手たちがトレーニングの重要性を認識しています。

そうですね。日本ゴルフツアー機構もセントラルスポーツさんと提携するなど、ここに来て環境が著しく変わってきたと思います。現在ではバイオメカニズム等の基礎知識が上ってきていることもあり、「ここに筋肉をつけたい」とか「こういう体をつくりたい」とトレーナーに伝えれば、筋肉がつくまで1、2年かかりますが、努力次第で戦う体が手に入れられる環境になりました。これはゴルフに限ったことではありません。日本のスポーツ界全体に言えることで、アテネオリンピックで日本の金メダルが増えたのも、正しいトレーニングの情報が増えたことが影響していると思います。



安田秀一(やすだ しゅういち)1969年生まれ。1992年法政大学文学部卒業。卒業後は三菱商事(株)に入社、96年同社を退職し、(株)ドームを設立して代表取締役役に就任。スポーツアパレル「アンダーアーマー」のほかにスポーツサプリメント、スポーツメディカルの事業を展開して現在に至る。高校、大学とアメリカンフットボール部に在籍し、91年全国大学選抜チームのキャプテンとして米国アイビーリーグとの試合「アイビーボール」に出場。

男子ツアーならではのパフォーマンスを魅せることが大事。熱い気持ちを前面に出して戦う男の姿は格好いいですよ！

「アンダーアーマー-KBCオーガスタ」の売りは？

「戦う男」をイメージしたポスターです(笑)。スポーツですから、何はともあれ格好よくないとダメ。見た目という語弊がありますが、「アンダーアーマー-KBCオーガスタは男たちの戦う場」という方向性をまずは統一し、それを具現化したポスターを制作しました。

大会の雰囲気も大切です。

スポーツの世界では、質が向上することによって、誰もが感動するドラマが生まれます。だから選手たちには心技体の質を上げてもらい、私たちはそれを引き出す環境づくりをしなければいけません。今年とはりあえずゴルフ場全体をピリピリした緊張感に包んで“戦う雰囲気”にすることによって、選手たちに「今年ちょっと違うぞ」という気分にさせたいですね。それがプロスポーツとしての一番のエンタテインメントだと思います。

ゴルフトーナメントは戦うイメージではありませんか？

競技性もあると思いますが、淡々としていますよね。確かにゴルフは自然やコースとの戦いだとは思いますが、勝負である以上必ず相手がいます。闘志を露にして、相手を打ち負かさなければいけません。その熱い気持ちが見ている側に伝われば、ゴルフトーナメントはもっと盛り上がると思いますし、プロだってもっと格好よく映りますよ。とにかく選手は格好よくないとダメです。

人気低迷は、そのあたりも影響しているのでしょうか？

日本の経済が右肩上がりのときは、ある種のブーム、ステータスとして多くの人がゴルフに興じ、試合も見たいと思いますが、今は違います。限られたお金をやりくりしながらゴルフを楽しんでいるコアなファンですから、プロトーナメントの面白さは「これだよ！」というスポーツの本質的なものを見せれば盛り上がると思います。それは緊張感の中で戦う姿であり、最高の技術を魅せるパフォーマンスなんです。今、男子ツアーは女子ツアーに人気をさらわれていますが、競技としての迫力、技術、スケールの大きさは男子ツアーのほうが遥かにあるわけですから、スポーツとして見れば絶対に男子ツアーのほうが面白い。だからこそ「アンダーアーマー-KBCオーガスタ」を戦う場にしないでほしいと思っています。

男子ツアーを盛り上げるには、その辺にヒントがありそうですね。

会社でも同じですが、昔からのしがらみが時代に合わなくなったときに業績は低迷します。そのときは何かを切り捨てるとか、新しいものを取り入れたりしなければいけません。そこに必要なのは決断。ツアー機構としてある程度独善的でもいいですからリーダーシップを発揮して、選手のモチベーションを上げ、一緒になって頑張ることが大事だと思います。人は価値ある文化にはお金を払います。たとえば世界的な交響楽団がくれば、何万円ものチケットを買って行きます。今こそスポーツ文化として男子ツアーが価値を高めることが大事。ツアー機構が選手たちを引っ張り、私たちは環境を整備する。その両輪がかみ合うことが一番肝心だと思います。私たちは微力ですが、そういうことをコツコツやっていきたいと思っています。

本日はありがとうございました。



聖地セントアンドリュースに挑んだ男たち

第134回全英オープンが7月14日から4日間、スコットランドのセントアンドリュースで行なわれた。“聖地”で繰り広げられた「惜別」「快挙」「挑戦」のドラマを振り返る。

帝王ニクラウス最後のメジャー。
R&Aの粋なはからいで決まった今年の舞台

前回、セントアンドリュースで全英オープンが開催されたのは2000年。そのときは2006年の第135回記念大会をセントアンドリュースで行なう予定で、ジャック・ニクラウスに出場依頼がされた。

しかし、ニクラウスは「2006年のセントアンドリュースに参加するには、僕は歳をとりすぎている」と答え、それを受けた主催者のR&Aはセントアンドリュースでの開催を1年前倒しにして、今大会にこぎつけたという。

「もしR&Aが、僕の65歳の誕生日に合わせてセントアンドリュースで全英オープンを開催してくれたのなら、とても名誉なことだと思う。セントアンドリュースは僕のゴルフ人生にとって、とても大切な場所。そして僕の最後の全英オープンに最もふさわしい場所だと思う」と、ニクラウスは大会直前の火曜日に語った。



さようなら、ジャック！

ニクラウスとセントアンドリュース。全英オープンに3回優勝したうち、1970年と78年はセントアンドリュースだった（もう1回は66年のミュアフィールド）。しかも78年の優勝で、ニクラウスは4大メジャーをそれぞれ3回以上制覇する前人未踏の“トリプル・グランドスラム”を達成している。

R&Aの粋なはからいで決まった帝王の花道を飾る最高の舞台。ニクラウスは二男のスティーブをキャディに、そして幾度となく死闘を演じてきたライバルのトム・ワトソンと予選ラウンドをプレー。予選通過ラインには惜しくも2打及ばなかったが、最終の36ホール目、万感の思いを込めたバーディパットをカップに沈め、ニクラウスのメジャーは幕を閉じた。

“ダブル・グランドスラム”を達成した
T・ウッズは聖地の申し子

帝王ニクラウスと同じようにタイガー・ウッズにとってもセントアンドリュースは特別な地となった。

今回、距離が164ヤード伸ばされたセントアンドリュース。フェアウェイの幅が広く、飛ばし屋のウッズのための舞台と言われた。その下馬評どおり、圧倒的な強さを見せつけて完全優勝したウッズは、2000年に次いで聖地セントアンドリュースを制覇した。



セントアンドリュースに絶対の自信を持つT.ウッズ

この優勝で、ウッズはニクラウスに次いで史上2人目の“ダブル・グランドスラム”を達成。しかもニクラウスの31歳をしのぐ29歳で快挙を成し遂げるとともに、メジャー通算10勝目を飾った。

「ゴルフの聖地で10勝目を飾れたことは特別な気持ちだ。特に全英オープンは2度ともセントアンドリュースで勝つことができた。コースが僕に合っている」と、ウッズはセントアンドリュースに確固たる自信を示した。

帝王ニクラウスが「もう、タイガーとは同じフィールドで戦えない」と言って後継者に指名した今大会。ウッズは「ジャックのメジャー18勝という記録の半分はもう過ぎた。僕にはまだまだ時間がある。僕は今年の12月でやっと30歳。ゴルファーとして一番活躍できるのは30代だから...」と、ニクラウスの記録超えに自信を見せた。そして「練習すればもっとうまくなれる。その結果は必ず明日出るからゴルフは面白い」と結んだ。

プロ転向9年間でメジャー10勝、米ツアー通算44勝を挙げたウッズ。30歳となる来シーズン以降、ウッズはどんな伝説を築いていくのだろうか。

メジャー初挑戦の高山と藤田が、
“攻めのゴルフ”で4日間を戦い抜く

日本ツアーから8名が挑戦した今年的全英オープン。高山忠洋、藤田寛之、D.スミール、S.K.ホの4人が予選通過を果たしたが、中でも初出場の高山と藤田の健闘が光った。

来年の出場権が得られる10位こそ逃したが、高山は4日間で19バーディ、13ボギー、1ダブルボギーの通算4アンダーで23位タイ。藤田も18バーディ、17ボギーの1アンダーの41位タイだった。優勝したウッズが奪ったバーディ数は21個、2位のC.モンゴメリーは1イーグル、18バーディだから決して攻め負けたわけではない。それだけに大きな自信を得た。



“いけいけゴルフ”で高山は初めてのメジャーを楽しんだ

高山は最終日に一緒に回った96年全英オープンチャンピオンのT.リーマンから、「良いスウィングだね。米ツアーにおいてよ」と誘われたという。「またチャンスがあれば海外でやってみたいです」と意欲をみせる高山。それには「まず日本で2勝目。そして海外での出場資格を取るために世界ランキングを上げること」と目標を語った。



精一杯戦った充実感と、確かな手応えをつかんだ藤田

藤田も「さすがしい気分。メジャーでトップの選手とラウンドできたこと、一流のショットを見ることができたこと、そして自分との違いを知ることができた貴重な一週間でした」と振り返る一方で、「もっとやれるという気もする」と自信を覗かせた。

世界レベルを肌で知り、4日間精一杯戦い抜いた全英オープン。この体験を2人はこれからどう活かすのか、注目される。

「ルールこぼれ話」第24話

皆さんは普段、正しい場所にドロップしたり、プレースやリプレースをしていますか？ 今号は「よりフェアにプレーする」ためのルーリングが報告されました。ゴルフの審判員はあなた自身です。参考にしてください。

マンダムルシードよみうりオープン

ラフの中の球を、
アルバイト学生が蹴飛ばしてしまった

【状況】 1日目、1番ホール(パー4)のセカンド地点で競技委員が要請された。右のラフに止まっていた球を、アルバイトの学生が誤って蹴飛ばしてしまったとのことだった。

【裁定】 アルバイトの学生は局外者なので、止まっているインプレーの球が動かされても罰はなく、その球はリプレースしなければならない。しかし、球が止まっていた元の位置が確定できなかったため、競技委員は球が止まっていたと思われる箇所のできるだけ近い所にドロップさせた。球が動かされた箇所が確定できればリプレース、はっきりしない場合はドロップとなる。

【適用規則】 規則18 1「局外者により止まっている球が動かされた場合」、規則20 3C「プレースやリプレース箇所を確定できない場合」

~全英への道~ ミズノオープン

ギャラリーに球を持ち去られた

【状況】 1日目、6番ホール(パー5)のグリーンサイドで、プレーヤーAの球がギャラリーに持ち去られてしまった。

【裁定】 この状況も局外者によって球が動かされたケースだが、その球は回収できないので、競技委員は近くにいたギャラリーの証言によって球が止まっていた箇所を推定して、罰なしにドロップさせた。一般のプレーで、たとえばブラインドホールなどにおいて球が見つからない場合、人や動物が立ち去るのを目撃しても「立証」や「証言」がないと紛失球となる。「恐らく、隣のホールの人が持って行ったんだろう」は認められません(参照: 裁定集18 1/1)。ご注意ください。

【適用規則】 規則18 1「局外者により止まっている球が動かされた場合」、規則20 3C「プレースやリプレース箇所を確定できない場合」

PGA・JGTO チャレンジ

置き忘れたクラブをキャディに取りに行かせ、
プレーを遅らせることなく間に合った

【状況】 1日目、インスタートのプレーヤーAは10番ホール(パー5)のセカンドショットを終え、共用のキ

ャディカート(4バッグ、1キャディの競技)にサードショットで使用するサンドウェッジを取りに行った。ところがバッグの中にクラブは見当たらず、10番ティインググラウンド脇の練習グリーンに忘れてきたことに気づいた。

プレーヤーAは全員がセカンドショットを終え、サード地点に向かう間にキャディに乗用カートでクラブを取りに行かせ、その組がサードショットする時間にはほぼ遅れることなく、キャディはクラブを持って戻ってきた。

【裁定】 ここで問題なのは後続組のプレー。キャディがティインググラウンドに戻ってきて、クラブを取ってサード地点に行くまで後続組はティショットすることができなかった。

スタートにいた競技委員は、そのために後続組のスタートが3分間遅れたので、プレーヤーAに「不当の遅延」で2ペナルティを加えるように伝えた。一見厳しい裁定ですが、「不当の遅延」はその組だけの問題ではなく、競技に参加しているプレーヤー全員を考慮して規則を適用します。

一般的にコース売店にパターを忘れることが多いようです。注意しましょう。

【適用規則】 規則6 7「不当の遅延」、裁定集6 7/1「ティに置き忘れたパターを取りに引き返す」

セガサミーチャレンジ

池の救済処置に従ってドロップしたところ、その
地点よりも10ヤード手前の池の中で球を発見

【状況】 1日目、18番ホール(パー4)のティショットをラテラル・ウォーターハザードに入れたプレーヤーは、池の限界を最後に横切った地点から2クラブレンジス以内に別の球をドロップした。しかし、キャディが池の中からいくつかの球を拾い上げると、ドロップした地点よりも10ヤードほど手前でプレーヤーの球が発見され、競技委員が要請された。

【裁定】 競技委員は、球が池の中の物に当たって戻ることがないことから誤所にドロップしたとして、10ヤード手前の地点を正しい箇所として、罰なしにドロップさせた。

読者の皆さん、球を池に入れたときにプレーヤーと同伴競技者で、池の限界を最後に横切った地点で意見が食い違ふことがあります。合理的な状況証拠が大事です。ご参考に！

【適用規則】 規則26 1C「ラテラル・ウォーターハザードに入った球の救済」、規則20 6「間違っ取り替えられたり、ドロップやプレースされた球の拾い上げ」



超過大申告

発祥当初のゴルフは、マッチプレーしかなかった。ようやくストロークプレーが考案されたのは、1759年のこと。一説には、マッチプレーの早い段階で強者同士が対戦すればどちらかが消え、公正な結果が出にくいと、とか。それはともかく、スコアを証明する必需品となったのが紙と鉛筆。こんな付属品が時に突拍子もないいたずらをする。

1976年8月5日、当時公式戦として格式があった関東プロ(秋田・男鹿GC)初日に起こったのもその一つ。当時39歳のベテラン、三浦勝利はその日1アンダー7(36、34)でベスト10以内のスタートとなるはずだった。ところが、集計されたスコアを見てびっくり。なんとアマ並みの計「102」でぶっちぎりの最下位。その真相は…。

提出されたスコアカードを見ると、本来は「4」だった9番ホールの欄にアウトの合計スコア「36」

が書き込まれている。そのため、8番までの合計「32」に「36」が加わりアウトは「68」となってしまったのだ。周知のように真実の打数より過少な失格だが、多い分にはそのまま採用となる。そのため「102」が正式なスコアとなったのだ。

ちなみに、プレーヤーは各ホールのスコアを記入(実際にはまずマーカーが記入)する責任はあるが、合計は書かなくても構わない。「加算は委員会の責任」(規則33-5)となっているからだ。

同じような事件は87年10月の東海クラシック2日目にも起きている。マーカーが9番にアウトの計「42」を書き込んでしまったのを鈴木規夫が見逃し、インと合わせて「122」となった。

こうした誤記を防ぐため、プロ競技等のカードでは、ホールスコアと同じ並びのハーフやラウンドの合計枠は黒く塗りつぶされ、その一段下に記入する工夫が施された。



盗難

「隣の芝」だけでなく、他人の持ち物は良く見えるらしい。スポーツの世界でも、名手や憧れのプロのサイン入りの道具を使ったり、時には同じ仕様の用具を使ったりするアマもいる。それが嵩じると、選手が使っている道具そのものが欲しくなることも…。

1981年8月24日朝、27人だけが出場できるエリート大会のワールドシリーズ(オハイオ州ファイアストーンCC)を3日後に控え、練習ラウンドに臨もうとしていた青木功の顔から血の気が引いた。宿泊先のホテルのロビーに置かれていたクラブがいくら探しても見つからないのだ。英国から参加のP・ウスターハウスも同様だった。

「ゴルファーにとってのクラブは、侍の刀」との考えの持ち主だけにショックは計り知れない。ホテル側は管理責任もあるので千ドル(当時で約23万円)の賞金を出して行方を追った。それはそれ

として、青木にしたらクラブなしでは大会に出場できない。そこで、あちこちからクラブを集めて、自分に合うように叩いたり捻ったりの格闘。このあたりは職人氣質のプロといえよう。

結末はというと、翌25日に犯人と思われる者から「ホテルの裏側にクラブがある」との電話が掛かり、二人のクラブが発見された。その夜は「戻ってくるとは思わなかったので、夜中まで飲んでしまった」という喜びよう。ちなみに賞金は「匿名通報」のため支払われなかった。この大会、青木にとって同年最後の米ツアー。結果は3位に入り、この年、米PGAツアーのメンバーになった初年度としては有終の美を飾る形となった。

この種の盗難は時折ある。前年に神奈川・戸塚CCで青木とJ・ニクラウスが対戦したとき、休憩の間にニクラウスのパターが同型のものにすり替えられたし、愛車ごとバッグが盗まれたことすらある。プロの皆さん、ご用心、ご用心。



半年後のV

いうまでもなくゴルフは自然との戦いだが、気ままに変わる天候への対応は、選手だけではなく主催者も悩まされる。

春先米国カリフォルニアで行なわれるペブルビーチ・ナショナル・プロアマは、ペブルビーチGLなど計3コースを順次プレーする予選の後、最終日に通過者がホストコースに集まって争う変則72ホール。1998年初日の1月29日は文字通り雨、アラレで9ホールだけ。翌日も雨でやっと18ホールを終えた。3日目は無事消化したが、2年前に49年コロナアル以来の不成立となっただけにその再現は屈辱、悪天候の予報を考え54ホールに短縮し、予選カットはなしとした。ところが、最終日に予定されていた2月1日はまたも豪雨、次週の競技日程を考えればノーゲームやむなしと思われた。

ただ、地元出身のT・ウッズ、首位タイには同大

会20年ぶりの優勝がかかるT・ワトソンがいるなど話題は豊富で、主催者はニッサンオープン終了の翌日、3月2日に最終ラウンドを行なうと発表した。そこでまた不都合が生じた。ウッズが同日に慈善活動を予定、欠場することになったのだ。ツアー側は即座にワシントン州サハリーCCでの全米プロ翌日の8月17日に再延期した。

ちなみに、91年4月予定のインディペンデントオープンは前半2日間とも雨で開催不能となり、そっくり10月第4週に移した例はある。が、最終日だけを半年後に行なったのはこれが初めてだ。

当日は、チャーター便でシアトルから駆けつけた133選手が出場。3コースのうちまだ回っていないコースを回ることで大会は成立、P・ミケルソンが通算14アンダー202で優勝している。当初出場の168人よりは二割ほど少ないし、ウッズやJ・ニクラウスは欠場したが、約半年の間隔も厭わず試合成立にかけた主催側の執念はアツパレだ。



◎ 広報室

■ 第1回リランキング順位が決定!

昨年のチャレンジトーナメント獲得賞金ランキング上位5名と、ファイナルQTのランキングで構成される「シード権を持たない選手のツアー出場優先順位」が見直され、第1回リランキングの順位が決定した。

第1回リランキングの順位は、昨年12月の「アジア・ジャパン沖縄オープン」から今年7月の「ウッドワンオープン広島」までの通算獲得賞金額をもとに算出し、7月21日からのセガサミーカップから適用されている。リランキングは全部で3回行なわれ、第2回は「アジア・ジャパン沖縄オープン」から8月第1週の「サン・クロレクラシック」まで、第3回は「アジア・ジャパン沖縄オープン」から9月第4週の「アコムインターナショナル」で見直される。

なお、昨年のファイナルQTランク16位の宮里聖志は「アジア・ジャパン沖縄オープン」、また同ランク29位のI.J.ジャンは「三菱ダイヤモンドカップ」、同11位のC.キャンベルは「全英への道~ミズノオープン」、同47位の野上貴夫は「ウッドワンオープン広島」でそれぞれツアー優勝を飾り、既に今シーズンのツアー出場権を獲得している。

昨年の第1回リランキングで上位に入り、ツアー後半戦に出場して首尾よく今年のシード権を獲得した選手に、小田龍一(第1回リランキング順位1位)、Y.E.ヤン(同2位)、J.M.シン(同4位)、W.リャン(同8位)、C.ブラポール(同11位)、井上信(同18位)がいる。しかもY.E.ヤンは「サン・クロレクラシック」と「アサヒ緑健よみうり」と2勝を挙げ、C.ブラポールも「ANAオープン」、井上信は「ABCチャンピオンシップ」でそれぞれ初優勝を飾り、ツアーに新風を吹き込んだ。

果たして、今年もリランキング順位からニューヒーローが誕生するか、目が離せない。

■ 宮里優作がツアー史上26回目のアルバトロスを達成



森社長から賞金を贈られる宮里

記念のボールは「持っているといつまでも達成感が残ってしまってモチベーションが下がるから」と、観戦していた子供にプレゼント。

「日本ゴルフツアー選手権穴戸ヒルズカップ」最終日、6番パー5(588ヤード)で宮里優作がツアー史上26回目(23人目)のアルバトロスを達成した。残り261ヤードの2打目を3番ウッドで打った宮里は、「ほとんどジャストイン。一瞬、頭が真っ白になった」と「快拳」の瞬間を振り返る。

また特別協賛森ビル(株)の森稔代表取締役社長より贈られた賞金30万円も、ちょうどこの日に誕生日を迎えた専属キャディの進藤大典さんにプレゼントした。

なお今シーズン、アルバトロスは6月の「マンダムルシードよみうりオープン」で定延一平が達成して以来、2度目の記録となった。

■ 米山剛に特別保障制度を適用



米山 剛

米山剛から申請のあった特別保障制度について、7月4日に開催された特別保障制度委員会にて公傷であることが認められ、7月5日に開催された臨時運営委員会にて、ジャパンゴルフツアートーナメント規定第33条に定める特別保障制度の適用が下記のように決定した。米山は昨年のダンロップフェニックス週から欠場をしており、現在は治療・リハビリを行ない、復帰に向けての準備を行なっている。

2005年度の最終賞金ランキングが70位以内(出場義務競技数に達していない者を除く)の場合

2006年度にその出場優先順位による出場権を与える。また、2005年度の出場義務競技数は免除する。尚、復帰後に出場できる競技が連続して3週間以上となる場合には、4週間目の1競技を欠場することができる。

2005年度の最終賞金ランキングが70位以下(出場義務競技数に達していない者を除く)の場合

2005年度最終賞金ランキング70位以内(出場義務競技数に達していない者を除く)のプレーヤーの平均出場競技数から、2005年度に出場した競技数を差し引いた数の競技に、復帰後出場することができる。この期間の獲得賞金と2005年度獲得賞金の合算が、2005年度最終賞金ランキング70位(出場義務競技数に達していない者を除く)のプレーヤーの獲得賞金と同額を超える場合は、2006年度に賞金ランキングシードの次位としての出場権を与える。尚、復帰後に出場できる競技が連続して3週間以上となる場合には、4週間目の1競技を欠場することができる。

■ 日本初! 第1回小学生ゴルフセミナーを開催

「スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ」に出場した児童120名を含む約300名が参加した『第1回小学生ゴルフセミナー』が、7月2日(土)茨城県教育研修センターで開催された。

このセミナーは、ゴルフが及ぼす教育的要素を引き出す試みとして、社会で生活していくために必要なライフスキルを、ゴルフを通じて習得するという目的で日本で初めて実施された。講師を務めた茨城県教育庁の橋川栄作さんは、「大人になって、社会に出てとっても重要なことは自分をきちんと相手に伝え、相手を正しく理解すること」と子供たちに説明し、「握手と自己紹介」というテーマでセミナーは開始された。



「4つの扉」で自己紹介

初めにゴルフの歴史について触れ、次に子供たちに「4つの扉」という自己紹介プログラムを実施。紙を縦と横に1回ずつ折り、4分割された枠の左上に名前、右上に県と小学校名、左下に好きなプロスポーツ選手、右下に今日の感想を書いて、約5分の間に120名の児童の自己紹介合戦が開始された。まず握手をして、4つの扉を開いての自己紹介、そして裏面にお互いのサインをして友だちを増やしていった。

セミナー開始前、橋川先生が「お友だちは何人できましたか」の問いかけに、ほとんどの児童が0とか1人と答えていたが、4つの扉を実施したあとは8名もの友だちと自己紹介を行なった児童もいた。積極的に自分をアピールして、相手を理解する効果はてき面だった。

Challenge Tournament

PGMシリーズ第1戦 ワールドチャレンジ

7月7日(木)～8日(金) ワールドCC(熊本県)

落ち着いて自分のプレーに徹した梶川武志。自己ベスト62をマークしてチャレンジ2勝目

若手選手の育成を目的にして、昨年から開催されているPGMシリーズ。今年も全5戦が行なわれるが、その初戦「ワールドチャレンジ」が熊本県のワールドCCで行なわれた。

初日を終えて首位と3打差に31人がひしめく大混戦の中からまず



プレーオフを制した梶川

抜け出したのは、最終日に10アンダー62をマークした梶川武志だった。1番から4連続パーディを奪って波に乗った梶川は、その後もパーディを量産して自己ベストの62をマーク。結局、2日間ノーボギーの14アンダーで後続組を待った。

この梶川に並んだのが、初日4位タイからスタートした井手口正一。コースまで車で30分の所に住んでいる井手口にとって、ワールドCCはホームコース同然。しかも同じ週に開催されたツアーのウッドワンオープン広島を欠場して臨んだ今大会だけに、執念でプレーオフの権利を手に入れた。

プレーオフ1ホール目の17番パー4は、本戦で2人ともパーディを奪っているホール。案の定、両者ともパーディチャンスを迎えたが、それをものにしたのは梶川だった。2003年チャレンジのキャスコカップで、Tスリロットにプレーオフで負けた苦い経験を持つ梶川は、落ち着いてプレーオフに挑むことに集中したという。

「これまで自分の実力を試合で出し切れないことが多かった。これからは結果というよりは、いかにして試合の中で自分のゴルフを落ち着いてやれるか、を目指したい」と梶川は語った。

これで昨年のPGMシリーズ第5戦大日向チャレンジに続いてチャレンジトーナメント2勝目。「PGMさんとは相性がいいのかも」と破顔一笑した。

昨年の前半戦は、2003年ファイナルQT 2位の資格でツアーを主戦場に戦っていた梶川。しかし、思うような結果が残せずに秋からチャレンジに出場してきた経緯がある。それだけにツアーへの思いは人一倍強い。結果を求め過ぎたために実力を出し切れなかったツアーに捲土重来を期すためにも、今年のチャレンジランク5位以内は外せない。「落ち着いて自分のゴルフができれば、結果はついてくる」というゲームプランを手にした梶川の今後が楽しみだ。

PGMシリーズ第2戦 かさぎチャレンジ by JGTO

7月21日(木)～22日(金) かさぎゴルフ倶楽部(京都府)

2週間前のリベンジを果たした井手口正一。チャレンジ初優勝でランキング1位に躍り出る!

昨年のライオンズCC(兵庫県)から京都府のかさぎGCに舞台を移して行なわれたPGMシリーズ第2戦。初日、8アンダー64で首位に立ったのはベテランの池内信治と2週間前のPGMシリーズ第1戦でプレーオフで涙をのんだ井手口正一、さらにジュニア時代に宮里優作や清田太郎とともに世界の舞台を踏んだ経験を持つ上本義幸の3人が並んだ。



最終日は快晴無風の好コンディション。「今日もパーディ合戦になる」と3人が予想したとおり、優勝戦線は一時5人が通算10アンダーで並ぶ大混戦となった。その中から抜け出しのが井手口だった。12、13番で連続パーディを奪うと、17番パー5でこの日6つ目のパーディを仕留めてホールアウト。2位に2打差をつけてチャレンジトーナメント初優勝を飾った。

「一緒に回った上本君が良いプレーをしていたから、彼に負けないように頑張りました」という井手口。16番パー3ではティショットをグリーン奥に外してピンチを招いたが、冷静なプレーでパーを死守。「あのプレーが大きかったですね」と振り返った。

2週間前にプレーオフで敗れた悔しさ、さらにツアーを欠場して挑んだPGMシリーズの第1戦と第2戦ただだけに、試合に賭けるモチベーションの高さが初優勝に結びついたといえる。

「優勝賞金はツアーに出るための資金にしますが、キャディをしてくれた父にももちろんプレゼントします」と井手口は父・一幸さんに感謝した。この2戦でバッグを担いだ一幸さんは、7年前にはPGA認定プロとしてシニア競技に参戦していた経歴の持ち主。「2人でゴルフすると経費がかかってしまうので、僕がやめたんです。でも、これで僕もゴルフができます」とニコリ。そして「2日間、格好よかったですよ。やっとここまでこれたと安心しました」と親の顔を覗かせた。

この優勝でチャレンジトーナメント賞金ランキングの1位に躍り出た井手口。このまま父に格好い姿を見せ続けられれば、来シーズンのツアー出場優先権はおのずと手に入れられる。そして次はツアーで格好い姿を...。井手口の挑戦はまだまだ続く。

今月のチャレンジトーナメント

PGMシリーズの第3戦、第4戦が行なわれる8月は、チャレンジトーナメント全13戦のちょうど折り返し点を迎える。前半戦6試合を終えてチャレンジ賞金ランキング1位に立ったのは井手口正一。2位高橋朋載、3位梶川武志がつけている。賞金ランキング上位5名に与えられる来季のツアー出場優先権を賭けた賞金レースも、これからは正念場。後半戦に突入したチャレンジトーナメントから目が離せない。

PGMシリーズ第3戦 大宝塚チャレンジ

開催日 8月4日～5日
賞金総額 1,000万円
コース 大宝塚ゴルフクラブ(兵庫県)
04年優勝 尾崎智勇(セゴビアチャレンジ)
アクセス 【車】中国自動車道・宝塚ICから10キロ
【電車】JR福知山線、阪急宝塚線・宝塚駅下車
入場料 無料

PGMシリーズ第4戦 阿見チャレンジ by JGTO

開催日 8月25日～26日
賞金総額 1,000万円
コース 阿見ゴルフクラブ(茨城県)
04年優勝 清田太郎(松島チサンチャレンジ)
アクセス 【車】常磐自動車道・桜土浦ICから12キロ
【電車】JR常磐線・土浦駅、荒川沖駅下車
入場料 無料